

日本ウナギ会議2019 要旨

2019年日本ウナギ会議実行委員会

主催：2019年日本ウナギ会議実行委員会

日時：2019年6月27日（木） 13:00から17:15

場所：中央大学後楽園キャンパス 3907教室

参加者（順不同・敬称略）：太田慎吾、清水孝之、櫻井政和、深谷一弥、函師尚文（水産庁）、木村伸吾（東京大学）、山本泰幸（イオンリテール株式会社）、内田和男（全国内水面漁業協同組合連合会）、横内一樹（水産研究・教育機構）、秋山貴彦、豊原有加、松本斉（パルシステム生活協同組合連合会）、大和田猛（無所属）、臼井英治（千葉県養鰻協議会）、篠田章（東京医科大学）、松本哲（日本生活協同組合連合会）、鈴木健太（埼玉県）、水野真隆（日本養鰻漁業協同組合連合会）、岡野豊、長田信人（エーゼロ株式会社）、渡邊俊（近畿大学）、樋口貴俊（日本大学）、橋本正平（鰻はし本）、時任恵司（うなぎ時任）、渡部幸和（わたべ）、中村裕治（ベニレイ）、海部健三（中央大学）
（注）各参加者は、それぞれの所属組織を代表するものではありません。

議長：太田慎吾（水産庁）

要旨：会議の内容を以下にまとめる。

記

- (1) 以下の報告、提案及び議論が行われた。
 - i. ニホンウナギに関する取り組みの状況（水産庁：太田慎吾）
 - ii. ウナギの保全と持続的利用を目指した取り組みと資金提供者のマッチングシステムの提案（事務局）
 - iii. 「養殖のトレーサビリティについて」（日本養鰻漁業協同組合連合会：水野真隆）
 - iv. 池入れ量上限の設定方法について
 - v. シラスウナギ流通の透明化について
 - vi. 成育場環境の保全について
 - vii. 適切な放流について
 - viii. 日本ウナギ会議の枠組みについて
- (2) 報告、提案と議論を受け、具体策について議論された結果、以下の合意に至った。
 - i. 2020年の会議において、水産庁が資源評価とシラスウナギ流通に関する事業の進捗状況を説明する。
 - ii. 必要な修正を加えたのち、取り組みと資金提供者のマッチングシステムを開始する。開始時に出席者に連絡するとともに、報道関係者などに周知する。
 - iii. マッチングシステムの運用は原則として一年毎とする。
 - iv. 日本ウナギ会議の枠組みのあり方については、引き続き協議を行う。
- (3) 2020年日本ウナギ会議実行委員が選出された（順不同・敬称略）。櫻井政和（水産庁）、木村伸吾（東京大学）、水野真隆（日本養鰻漁業協同組合連合会）、内田和男（全国内水面漁業協同組合連合会）、秋山貴彦（パルシステム生活協同組合連合会）、篠田章（東京医科大学）、海部健三（中央大学）ほか3名程度。
- (4) 要旨は公開、議事録は非公開とする。

以上